

2022年度第1四半期決算説明会 質疑応答要旨（報道機関）

| | |
|-------|---|
| 日時 | :2022年7月28日(木) 14:30~15:10 |
| 場所 | :三菱電機株式会社 本社 (オンライン会見) |
| 当社出席者 | :常務執行役 CFO 増田 邦昭 上席執行役員 経理財務統括、経理部長 藤本 健一郎 |

(※回答者はすべて増田)

Q. 部門別の第1四半期の業績について、社会システム、防衛・宇宙システム、自動車機器が赤字となった要因は。特に社会システムは品質問題の影響があるのか。

A. 社会システムは、国内交通各社の設備投資の減少に伴う売上高の減少や、好採算の案件が減少したため赤字となったが、通期では黒字を見込む。品質問題の影響については、現時点で見込んでいる費用を全て織り込んでいるが、今回の減益・赤字の要因は市況によるものが大半であり、品質問題による大きな影響はないと認識。

防衛・宇宙システムも、売上高の減少とコスト増加により第1四半期は赤字だったが、通期では黒字を見込む。

自動車機器は、部材・素材価格の上昇、物流費増加の影響が非常に大きい。需要側では上海ロックダウンの影響等があり、実質的な減収となり足元の損益が非常に厳しい。

Q. 空調・家電について、国内のエアコンの出荷状況は前年同期と比べてどれくらいの状況か。

A. 国内の家庭用エアコンは、当社の出荷台数ベースで前年同期比約9割。需要は堅調だが、部材調達難等の影響で出荷しきれていない。業務用エアコンは前年同期比約8割で、同様の状況。

Q. 半導体需給の緩和が見られるが、部材調達の現状は。

A. 半導体の需給については、特に緩和している認識はなく、非常に逼迫した状況が続いている。

上海ロックダウン等さまざまな要因があり、多くの部材の供給が滞ったり、調達が難しくなる状況が見られる。足元では、状況が好転するまでには至っていない。

Q. 部門別の業績見通しについて、社会システムと空調・家電は下方修正、ビルシステムと電子デバイスは上方修正したが、その理由は。

A. 社会システムは、国内交通各社の設備投資抑制の影響が大きく、前回予想よりも減収を見込んでおり、それに伴い減益を見込む。

空調・家電は、第1四半期で上海ロックダウンの影響が想定よりも大きく、部材調達難も継続している。部材の逼迫は回復の兆しが見られるが、操業への影響も残っているため、年間を通じてリカバリが厳しい。素材価格や物流費の上昇もあり、価格改善の効果も織り込んだが、前回予想よりも減収減益を見込む。

ビルシステムは、国内のリニューアル事業や、アジアでの受注状況が良く、また円安の影響もあり、前回予想比増収増益を見込む。

電子デバイスは、足元も含めて、今後もパワー半導体の需要が堅調であり、米国のデータセンター向け光デバイスの需要も底堅い。円安の影響もあり、前回予想比で増益を見込む。

Q. 3月にロシアの事業を停止したが、その影響はあるか。

A. 当社はロシアにおいて 100 億円規模のビジネスを展開していたが、現在は一時停止している。この影響は前回の業績予想に織り込んでおり、変更はない。

Q. 前回の決算発表で、一連の品質不適切行為の業績への影響として約 70 億円を見込んでいるという説明があった。5月に新たな不適切行為が発覚したことを受け、追加で見込んでいる費用はあるか。

A. 品質不適切行為に関しては、皆様にご心配・ご迷惑をおかけしており、誠に申し訳ない。

5月25日に新たな品質不適切行為を発表した後、お客様との会話を継続しているが、現時点で費用に大きな変化はない。前回の決算会見では、全体で約 70 億円を見込んでおり、その時点で約 40 億円が償却費、残り約 30 億円がその他費用とご説明した。現時点で、品質関連の設備投資は計画通り進めているが、稼働時期に若干の遅れがあり、今年度は償却費が約 30 億円、その他費用が約 40 億円と、それぞれの内訳が少し変化しているが、全体で約 70 億円には変更ない。

Q. 半導体を確保するための具体的な対応策は。

A. 必要な部材をしっかりと確保すべく、在庫の積み上げを図っている。調達が難しい部品があるため、一部の設計変更、調達先のマルチソース化を進めている。厳しい状況は続くが、こうした方策で乗り切っていきたい。

Q. 空調・家電の減益幅が他のセグメントより大きくなった要因は。通期では業績が大きく回復する見込みだが、そのシナリオは。価格改善も織り込んでいるのか。

A. 第 1 四半期の上海ロックダウンの影響が大きい。今でも若干、生産に支障を来している状況だが、徐々に改善していくと見ている。価格については、見直しの効果が出始めているところで、通期では徐々に効果が大きくなると考えている。需要自体は堅調であり、業績の改善を図っていける見込み。

Q. 上海ロックダウンの影響が大きかったということだが、上海周辺に生産や調達拠点があるのか。

A. 生産と調達、両面での影響があった。上海を物流のキーにして、その周辺で生産も行っている。上海を通る物流の関係で、さまざまな拠点での部材調達に影響があった。

Q. 素材価格の上昇について、通期でマイナス 170 億円を見込んでいる。さまざまな素材価格が上昇しているが、どの事業のどの部材、という具体例を挙げてほしい。

A. 現在は、鉄と樹脂の価格が厳しい。銅等の一部の素材は少し価格が緩んでいる状況だが、鉄と樹脂は当初の織り込みを大きく上回っており、当社の業績に影響している。両方とも、広範な事業に影響がある素材。

以上